

令和6年度
学校関係者評価委員会議事録

1. 開催日時 令和6年6月8日(土) 午後2時58分～

2. 開催場所 中央医療技術専門学校 3号館4階 会議室
東京都葛飾区立石3丁目5番12号

3. 学校関係者評価委員定数 6名

4. 出席者 学校関係者評価委員

委員長 神田 吉也 : 卒業生

(アサヒメデイカル株式会社顧問)

副委員長 伊丹 重貴 : 学校運営に関する有識者

(株式会社トキワ薬品化工取締役社長)

委員 柳田 智 : 関連教育機関関係者

(つくば国際大学医療保健学部診療放射線学科教授)

平野 雄二 : 臨床実習施設関係者

(筑波大学附属病院放射線部診療放射線技師長)

菅 勝幸 : 医療機器製造・販売関係者

(株式会社六涛東京営業所)

福田 昌弘 : 在校生保護者

(医療法人財団岩井医療財団岩井整形外科内科病院

検査部放射線技術科課長兼技師長)

内部評価委員会

委員長 横田 浩 (学校長)

委員 小川 雅之 (教務部長)

加藤 広宣 (教務部参与)

中島 正弘 (教務課長)

河合 繁 (学生課長)

池田 信昭 (学校総務課長: 事務長)

宮田 道夫 (法人事務局長)

岸 千春 (法人事務局次長: 財務担当)

法人事務局

森重 美三男 (理事長)

5. 議 案

1. 令和5年度学校自己評価報告について

2. その他

6. 議事録署名人 柳田 智 平野 雄二

7. 配布資料
1. 令和5年度 学校自己評価報告書
 2. 応募数と入学者推移
 3. 入学から卒業・国家試験合格の推移
 4. 国家試験合格率
 5. 自己評価ポイント比較率
 6. 過去5年間の収支（事業活動収支計算書より抜粋）
 7. 第29期事業報告書

神田委員長は、議事に入る前に、森重理事長からの報告を求めた。

【理事長報告要旨】

令和5年度は、3月の末に亡くなった小嶋前理事長の学園葬を4月5日に執り行った。5月になり、新型コロナウイルス感染症の分類が5類に移行し、予防策も緩和され、徐々に平常の学園生活を取り戻してきた。秋には何年振りかの来場者を招いての学園祭を開催した。また、卒業式も来賓を招いて執り行った。年度末には通常の学園生活に戻ってきた。そして、国家試験の合格率も好成績に終わった。

法人としては、大学設立のための用地を取得することができた。神奈川県横須賀市郊外にある横須賀リサーチパークにある土地、建物を取得した。早くも3年後、遅くとも4年後には、大学を開学したいと考えている。

ここ数年夜間部の応募者が減少し、入学者も定員割れが続いていることと、夜間部の在学年数は4年間なので、夜間部閉校と大学開学設立が同時期となることから、来年度から夜間部の募集を停止したい。

本日は、令和5年度学校自己評価の結果が出ましたので、皆様にお集まりいただき評価をいただきたいと存じます。よろしく願い致します。との挨拶があった。

その後、委員長は委員会成立事項報告を求めた。

学校関係者評価委員会成立事項報告（委員会進行の宮田道夫法人事務局長）

本日の委員会は、委員6名が全員出席しており、学校関係者評価委員会規程第7条1項に定める出席委員数を満たしており学校関係者評価委員会が成立することを報告する。規程第8条により、委員以外の者に出席を求め意見を聞くということで、本日は学校内部評価委員8名が同席をする。また、規程第10条には、委員会の事務は、本校の教務部において処理するとあるが、本日は、法人事務局で議事録を作成するのでご了承を願う。なお、議事録作成上、本日委員会の録音を行う。との報告があった後、神田委員長に議事の進行を依頼した。

委員長は、議事録署名人に、柳田智委員と平野雄二委員を指名し、両名が承諾し議事に入った。

議長は本委員会において、令和5年度学校自己評価報告書について、内部評価委員会が説明をし、その後、質疑応答等により学校関係者評価委員が評価することとした。事前に各委員には令和5年度学校自己評価報告書が配布しているので、一般的な説明でなく重点的な事項や要点等を項目ごとに内部評価委員に説明を求めた。

横田内部評価委員長（学校長）より、令和5年度学校自己評価報告書の概要説明に続いて評価項目ごとに以下のとおり内部評価委員から説明があった。

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1. 教育理念・教育目標 | 横田 浩（学校長） |
| 2. 学校運営 | 宮田 道夫（法人事務局長） |
| 3. 教育活動 | 中島 正弘（教務課長） |
| 4. 学修成果 | 中島 正弘（教務課長）、 |
| 5. 学生支援 | 河合 繁（学生課長） |
| 6. 教育環境 | 池田 信昭（学校総務課長：事務長） |
| 7. 学生募集と受け入れ | 河合 繁（学生課長） |
| 8. 財務 | 岸 千春（法人事務局次長：財務担当） |
| 9. 法例等の遵守 | 小川 雅之（教務部長） |
| 10. 社会貢献 | 小川 雅之（教務部長） |

委員長は、学校関係者評価委員は各方面から委員をお願いしている。その辺を踏まえて、令和5年度学校自己評価報告について、項目ごとに意見、質問を受け、内部評価委員から回答を得て、今後の学校の発展に役立ててほしいと思う。と意見を述べ、1項目目の教育理念・教育目標についての質疑を求めた。

【質疑応答】

1. 教育理念・教育目標

（質） 夜間部の学生が極端に減ってきている。また、大学開学の時期も重なり、募集停止にするとのことだが、夜間部の学生の減少について原因を追究できているのか。（神田）

（答） 極端とまではいかないが、年々減ってきている事実は認識している。2015年までは昼間部40名2クラス、夜間部も40名2クラスであった。その当ても夜間部2クラス募集しても1クラスしか集まらなかった。それで、現在のような昼間部3クラス、夜間部1クラスにした経緯がある。当時から徐々に減少してきている。以前の夜間部の学生は、医療機関に勤務する学生が多くいた。夜間部であっても、臨床実習は昼間であり勤務先の配慮により実習に参加できていた。しかし、現在は昼間勤務で、昼間の臨床実習に参加するのは難しくなっている。また、他校も減少していると聞いている。（小川）

2. 学校運営

（質） 学則変更により、在学年数が変わったことについて、昼間部3年生（最終学年）が増えてきてしまう恐れがあると思うが、どのように考えているか。（柳田）

（答） 変更した理由は、変更前の学則は1学年が2年を限度としていたが、最終学年の留年生の点数がわずかに足りなかったために、卒業できずに退学になるのを防ぐため、もう1年在学して卒業させるために変更したものである。しかし、委員ご指摘のとおり、最終学年が増えることが予想されるので、具体的に検討していきたい。（横田）

（質） 学則の細則の変更について、「11月末までの結果で合格基準点を決め、それを超えなかった場合」に変更するのは、ハードルを下げたことになるのか。（平野）

- (答) 変更した理由について、卒業判定は2月に実施し、国家試験の申込みは12月である。変更前は国家試験を全員が申し込んでいたが、応募者数(12月申込み人数)と受験者数(卒業見込み者のみ受験する。)の人数に差が出てしまう。11月末までの結果で卒業が見込めない者に対して、国家試験の申込みはしないようにした。ただし、「120点以上」と確定せずに「合格基準点」を決めて国家試験を受験させることにする。(横田)
- (質) 学則の細則の変更について、「120点以上」から「11月末までの結果で合格基準点」にしたことにより、早めに学生が就職活動できるメリットはあるのか。(平野)
- (答) 早めの学生の就職活動については、毎回のテストで基準点を超えない者には就職活動させていない。この細則の変更にはあまり影響しない。(横田)

3. 教育活動

- (質) 3年間の教員相互の授業参観について、成果はどのように出ているか。(柳田)
- (答) 当学園の志田監事に教員相互の授業参観をお願いしている。各教員に報告書を提出しているが、良くなっている教員は、報告書を真剣に受け止めて改善しているので、成果があったと思う。しかし、ほとんど変わらない教員もいるので。教員相互の授業参観としてはもう限界ではないかと聞いている。(横田)
- (意見) 通常、非常勤講師に対しての授業参観は実施していない。ファカルティ・ディベロップメント(FD)とは常勤の職員に対しての教育内容等の成果を上げる、教員のレベルを上げることが本来の目的である。その成果がどれくらいなのか聞きたかった。(柳田)
- (質) 留年生、主に退学者のフォローについて、どのようにしているのか。(柳田)
- (答) 留年生という区分ではないが、担任との面談が以前より多くなっている。最上級学年の留年生については、臨床実習は1回終わっている学生に対して、2回目の時期に臨床実習には行かせず、徹底的に授業を行う。また、教員が数名で担当を決めて留年生を指導していく。なお、最上級学年の留年生に対しては、毎年、校長面談を実施している。(小川)
- (答) 退学した学生に対しては、就職相談とまではいかないが、今後の進路について話し合っている。今後も医療の現場にいたいと言っていた学生は、話し合いの結果、医療事務の勉強をして資格を取った事例もある。(中島)
- (意見) 退学しそうな学生や学業が続いていかない学生には、エックス線作業主任者の資格をまずは取らせる。試験は数か月に1回実施されている。それでモチベーションが上がって、学習が継続できるという話があり、ぜひ、検討してみたいか。(柳田)
- (意見) 非破壊検査の会社からの求人があり、退学になった学生にも連絡している。興味がある場合には紹介している。(河合)
- (質) 実習内のOSCEを実施しているが、実習後に、実習報告等、各実習病院から報告があるが、おそらく、解剖の力が弱いということが、どの施設からも挙がってくる。そこで、実習後に簡単な解剖の試験を実施すると、国家試験の対策になる。また、実習後に各施設の特徴などを学生にプレゼンさせる等、実習の成果の発表の場を設け、プレゼン力を上げることに。それが6項目目の教育環境にある「コンピュータ社会への対応が可能な人材育成」である。(平野)
- (答) 今年度から、昨年の実習の感想や実習内容等のプレゼンを実施することになり、開始いたところである。(中島)

4. 学修成果

- (質) 令和5年度の退学者が例年になく多かった。メンタル面が原因ではないかと言われているが、カウンセリングする中でその結果をフィードバックしているのか。どのように反映しているのか。(福田)
- (答) 退学する場合は、まず担任が面接し、校長に報告する。通常の退学の理由としては、入学したが自分に合わなかったという理由が多い。そういう理由が例年より、令和5年度の人数が多かった。他には、勉強についていけなかった、経済的理由などである。令和5年度の退学理由が特に変わっていたわけではなく、例年のような理由で退学する者が多かっただけである。(横田)
- (質) 退学者が増加したと言っているが、何名退学したか。(神田)
- (答) 70名である。メンタル面などによる自己都合による退学だけでなく、在学期間が同学年2年間なので、2回留年して退学になる者や、まだ留年できるのに、進級できなかったという理由で退学するも者もいた。(横田)
- (質) 資格取得率の向上について、資料では新卒の国家試験の合格率が94.3%となっているが、これは高い数値か。(神田)
- (答) 専門学校の新卒の合格者の人数は83人でトップであり、合格率94.3%は、自衛隊中央病院診療放射線技師養成所を除き、実質の専門学校の中ではトップである。(横田)
- (質) 既卒者の数値はどうか。(神田)
- (答) 既卒者は14人受験し、合格者は0人である。例年であれば合格率は20%程度である。全体的に今回の国家試験は難しかったと言われている。(横田)

5. 学生支援

- (質) 近年は学生も多様性になってきて、ジェンダーレスに対する規則ができた学校もある。白衣が女性用と男性用が違って、統一できないかという意見もある。また、国家試験の欠格事由の見直しにより、障がい者も診療放射線技師になれるなど、ジェンダーレス化に対応していかなければならない。何か対策をとっているか。2点目は、「6. 教育環境」になってしまいが、学生の支援としてWi-Fi環境はどうか。近年は、レポート提出などをタブレットやスマホで送信している環境が多いが、どのように対応しているのか。3点目は、近年黒板を使用している教室は見かけない。今は、ホワイトボードが多く、スライドなどもホワイトボードに映し込むとその場で書き込めるなど利点が多い。最近の高校もホワイトボードが多いと思う。チョークの粉が飛ぶなどの意見もあるが、黒板についてどのように対応していくのか。(柳田)
- (答) ジェンダーレス、障がい者の対応についてですが、現在のところは、該当者、要求及び要望等はなく、将来的には対応していくべき問題だが、現在は対策していない。(小川)
- Wi-Fi環境は全教室に整備していない。13教室すべて設置するのは予算的に難しい。しかし、現代においてはWi-Fi環境を整備していく状況にあり、今年度4月に4号館のラウンジと図書室に学生向けのフリーWi-Fiを設置した。利用率は把握してないが、学生が使用しているのを確認している。レポートを電子的提出させることについて、実習、実験等だけでなく、通常授業でもあり得る。現在はレポートの電子的提出は実施してない。パソコン室での授業であれば、レポートを電子的提出は可能ではある。(池田)

黒板についてですが、ホワイトボードも検討しているが、チョークをうまく利用して、色の濃淡を表現する教員もいるので、一概にホワイトボードに変更できないので、今後の検討課題である。(池田)

(質) 新卒者の求人数が減っていると聞いているが、就職率向上のためにどのような施策等を実施しているか。(福田)

(答) 求人数は年々減っている。学校に求人するのではなく、ホームページで求人情報を載せている病院が増えてきている。学校にくる求人情報だけでなく、病院やハローワークなどを情報収集して学生に提供している。以前に、学生が人材バンクを利用したトラブルもあったので、求人情報の利用の仕方などを指導している。求人情報の提供の仕方を検討しているが、現状の掲示板とPDF化したものを配布している。(河合)

(質) 人材バンクの利用は、新卒者でもあるのか。(福田)

(答) 新卒者はないが、卒業1年後に国試を合格した既卒者が人材バンクを利用したが、人材バンクは紹介手数料を病院側が支払わなければならない。人材バンクについては学生の不利にならないように、情報収集のみで、学生が利用しないよう、ハローワークや求人情報など別ルートで対応している。(河合)

6. 教育環境

(質) デジタル装置の使用に関して、レポート作成するうえで、生成型AIを使用して作成する学生が増えてきている。生成型AIに対して、学校がどのように対応しているか。生成型AIに対して、使用規則等を作成している学校も出てきている。(柳田)

(答) 文章を作るときに利用している学生はいるらしいが、実際に利用しているかどうかの判断は難しい。現在規制をかけてないが、今後、必要になってくる。(中島)

(意見) 情報リテラシーを新生入生に教育をしていく。AIを教育現場でどう活用するかについては、学生にうまく使わせること、情報リテラシーを知ってうえで使わせればいいものになる。ここへ来て、使わせないことは無理である。そこで、学校側がルールを明文化した方が良いと思う。(柳田)

7. 学生募集と受け入れ

(質) テレビ局へのCMについて、反響や成果はあったのか。(神田)

(答) CMを見た学生は確認している。(河合)

(答) 当校は千葉県出身者が多く在籍している、今回の入学者もトップだったが、成果があったかどうかは確認できていない。(森重)

8. 財務

(意見) 財務がひっ迫してくるのかどうかは、学生数による。今までの質疑の中でもキーワードはあると思うので、それを積極的に打ち出すことで学生を集めるべきである。先ほどのテレビ局へのCMなど、学生を集めることは重要であるので、学生募集に関して、コンサルも含め専門家の意見を入れていくべきである。(伊丹)

9. 法令等の遵守

(質) 卒業生の進路について、どの程度把握しているのか。(神田)

(答) 卒業後の就職先は把握している。その後の転職先は、学校に連絡がなければ把握していない。(河合)

(質) 在学中のメールアドレスは卒業後も使えるのか。(柳田)

(答) アドレスは昨年度発行しているが、契約数の関係で卒業後は解約している。(河合)

(質) 卒業後1年間や、そのまま使用している学校もあるが、導入するのか。(柳田)

(答) 卒業後も使用している学校もあり、検討はしたが、契約数の関係で卒業してある程度の期間を過ぎて解約している。(河合)

10. 社会貢献

(質) ピンクリボン運動について、参加はしていないか。ピンクリボン初級、中級認定試験などあり、履歴書に記載でき、就職時に有利になり、地域の技師会でイベント要請などがあり、参加する価値はあると思う。参加する考えはあるのか。(柳田)

(答) 今後、検討していきたい。(河合)

(意見)「学生のボランティア活動を奨励、支援」の項目について、評価点が2である。コロナ禍の影響があったと思われるが、今後、実施、支援していただきたい。(神田)

委員長は、質疑終了後、横田学校長から発言を求められたので、配布資料の「アクセス解析レポート」の追加説明を許可した。

昨年度の指摘のあったホームページの来場者数などの内容について、「アクセス解析レポート」で説明した。(横田)

以上の説明及び質疑応答の後、神田委員長の要請で、委員以外の学校関係者は退室し、学校関係者評価委員で総評に入った。纏まった総評を、神田委員長より学校側に述べた。

【神田委員長総評】

本日、内部評価委員会から報告を受けました。令和5年度もさまざまな制約があった中で、教職員の努力によって概ね良い運営がされていると評価します。

委員会での特に評価する点は、国家試験の合格率が94.3%（新卒）、専門学校では自衛隊に次いで2番目でした。実質1位であり、特に評価いたします。

また、学生が学会に参加している素晴らしい教育環境を作って、熱心な教育していることを評価いたします。

しかし、70名の退学者、学生を育てていく機関として、見直し、力を入れていく必要がある。また、障がい者に対する対応、取り組みが遅れている。委員からは、そこを整備することにより、学生募集のアピールになるとの意見があった。近年の学生は情報リテラシーが必要であり、今後、育てていただきたい。評価が2点の項目については、必ず、学校内で再検討していただきたい。

今後も学校発展の為に努力していただきたいと思います

委員長は、他に質疑の有無を諮ったが特になく、本日の学校関係者評価委員会を終了した旨を述べ午後5時12分に閉会した。

以上

本議事録記載事項について、正確であることを証するため委員長及び議事録署名人各署名押印する。

令和5年6月10日

委員長 氏名 神田 吉也 

議事録署名人 氏名 柳田 登 

議事録署名人 氏名 平野 雄二 

以上

